

岡畑興産株式会社

我が社の履歴書

— 和歌山緑風舎 音楽ホール 10 年の苦闘記 —

Okahata

会社概要

- 会社名： 岡畑興産株式会社
- 創業： 1946 年(昭和 21 年)1 月 26 日
- 資本金： 9,936 万円
- 代表者： 取締役会長 岡畑 精記
代表取締役社長 岡畑 典裕

● 事業所所在地

【本 社】： 〒542-0082 大阪府中央区島之内 1 丁目 5 番 6 号
TEL(06)-6251-8252 FAX(06)-6251-8278

【東京支店】： 〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 26 番 9 号 新川イワデビル 8 階
TEL(03)-5543-3231 FAX(03)-5543-3237

● 国内・海外個会社：

「個会社」の「個」は独立した事業体として各社が個性ある事業展開を行うことを期待して名付けられました。国内 3 社、海外 5 社の 8 社の個会社が岡畑グループを構成しています。本社および個会社 8 社は、独立と連携、情報の共有によって、専門化・地域化・国際化を目差しています。



— 和歌山緑風舎 音楽ホール 10 年の苦闘記 —

著 者：岡畑興産株式会社 取締役会長
緑風舎 舎主 岡畑 精記氏

緑風舎
自由空間

南海電車和歌山市駅からタクシーで緑風舎とお願いすると、紀ノ川をわたって緑に囲まれた小さな音楽ホールに案内して下さる。駅から 5 分にあるホールは庭には四季折々に花が咲き乱れ、木々の間を風が吹きすぎる別世界です。お隣の野崎小学校と同じほどの敷地に立つ古い日本家屋のなかに 70 席のホールがある。それが音楽ホール緑風舎です。



昨年 12 月、緑風舎自主演奏会 50 回記念コンサートが開かれました。演奏家は今若手で人気ナンバーワンのヴァイオリニスト郷古廉さん。バッハ、イザイやバルトークなどの難曲をウイーン仕込みの腕で見事にお客様を魅了してくれました。恒例の演奏会後のパーティにはバイオリンを背負った学生さんから初老のご婦人まで様々なクラシックファンが参加され、郷古さんとお話を楽しんでおられました。

緑風舎では演奏者と観客との交流を大切にしています。演奏家は観客の反応を大切に感じています。観客とともに自らを高めながら音楽を創り上げ、観客は演奏家の熱気を肌で感じて音に身をまかせ、時の過ぎるのを忘れてしまいます。緑風舎では演奏家とお客様それにホールが三位一体となって室内楽を満喫していただけます。

緑風舎は昔の宮廷音楽会みたいと褒めてくださいます。オーストリアのヨーゼフ大公はハイドンやモーツァルトを招いてしばしば演奏会を開いているし、ケネディ大統領がカザルスを招いたホワイトハウス演奏会はとても有名です。ケネディは客席の中

央で泰然として音楽を楽しまれていたが、緑風舎の主人はお客様をお迎えして司会をし、演奏家をホールに誘いながら、CD は売れるかなと思案するという具合で、とんでもなく大きな違いですが、演奏家の息遣いを肌で感じる室内音楽会の醍醐味を味わえる点では宮廷音楽に負けないかもしれません。



なぜこのような小さなクラシックホールが和歌山に生まれたのだろうか？ 実は緑風舎は筆者が生まれ育った家にあります。両親は戦後間もなく和歌山で創業し、5 人の子供たちはそこから巣立ちました。当時は自宅も事務所も倉庫も社員寮も一緒に、多い時には 30 人に近い若い寮生と一緒に生活していました。筆者が中学生の頃は、まだ女中（今や死語となっていますが）さんが数人いて寮生の賄いを取り仕切り、それは賑やかなことでした。時とともに事業形態は変わって、商いの舞台は大阪や東京に移り、さらにはアジアとの貿易に広がると、和歌山の実家は仕事の中心から生活の場となり、大きな家は必要がなくなりました。

そして僕が事業の後を継ぎ、父と住むために和歌山に戻ることにになり、役目を終えた会社部分を取り壊し、思い切って小さく改修しました。時がたち子供たちが独立し、父が亡くなり、妻と 2 人家族になると、その家でさえ大きく感じるようになりました。大きな 1 階のリビングの使用方法を考えている中で、ホールとして地域の文化交流場所にするアイデアが浮かび 2008 年から活動を始めました。家内は友人知人を誘って、絵画、書道、パッチワークと様々な展示会や催しを楽しんでいました。ある日チェンバロの演奏会をされた山名敏之先生がホールの音響をとて褒めてくださり、それならば、このホールで室内音楽会をしようと夢のような構想が浮かんできました。

幼い頃からレコードでクラシック音楽に馴染んでいた僕は、昭和 32 年から始まった日本初のフェスティバル「大阪国際音楽フェスティバル」に魅せられました。マリオデルモナコが主演した歌劇オテロを観るために両親に頼み込んで当時 3 000 円の切符を入手しました。今でもモナコの声のすばらしさや男前ぶりを鮮やかに思い出します。振り返ると当時は大阪の黄金時代で、経済も芸術文化も大阪から広がったのでした。自分で切符を買えるようになると足しげくコンサートに通いました。留学先のドイツから戻った和歌山出身の名ピアニスト杉谷昭子さんの後援会を日本各地に広げる動きに参加しました。杉谷さんは若くて瑞々しいだけではなく、音の美しさを追求する強い信念と、果敢な行動力をもった魅力的なピアニストでした。彼女のおかげで遠い世界にいた高名な音楽家の生活や舞台裏を垣間見て音楽がとても身近なものになりました。そんな若い頃の経験と杉谷さんと知り合ったことが僕を音楽愛好家の端くれに育ててくれたのでしよう。



杉谷さんを通じて演奏会のイロハをなんとなく学んでいましたから、我が家のホールで演奏会を開催することへの恐れはありませんでした。僕には新しい音楽の世界が一気に現実のものになってきたのです。



ホールにはピアノが不可欠です。Steinway、できれば D（フルグランド）が望ましいという杉谷さんの推薦があり、良いピアノが山口にあるから見に行こうということになりました。その夜、温泉宿の食事の席で突然杉谷さんが改まって涙を流しながら額を畳に擦りつけるように家内にピアノ購入を頼み込んだのです。予想もしないことでしたが、その熱意にあてられてやむなく僕は承諾をしてしまいました。泣き落としとはこういうことを言うのでしよう。Steinway はアルファベット順で値段が高くなりますが、その中でも D は格別です。杉谷さんの涙は高いものにつきました。音の伝道師杉谷さんが気に入って愛用していたピアノだけにそれは誠に素晴らしいピアノでした。

早速緑風舎に持ち込みましたが、これがまた驚きです。山口で聴いたあの音はどこにいったのでしよう。どうしても再現できません。ホールが響き倍音がホールの中を動き回り、まるで雲が漂っているように見えます（聞こえるのではなく、実際に見えるのです）。置き場所を変えても、どうしても倍音は離れていきません。これではとても音楽にはなりません。天井を高くする

ことも、壁を広げることでもできず、ピアノが使えないとホールはできないと頭を抱えていると、助っ人が現れて見事解決してくれました。なんとウレタンキューブを奇妙な形に切った吸収板とデイフューザーを組み合わせ倍音の雲を追っ払ってくれたのです。

第一回お披露目音楽会はもちろん杉谷昭子さんのピアノリサイタルでした。知事や市長を来賓に迎えて意気揚々の緑風舎のスタートでした。その後、杉谷さんを軸にピアノ、チェロ、フルート、クラリネットなど、ソロからデュオ、トリオさらにはカルテットと演奏会のレパートリーを広げていきました。そこでまた一つのハードルにぶち当たりました。質の高い演奏会とは何かという課題です。誰もが行ってみたいと思ってくださるのが理想ですが、お客様は様々です。室内楽という狭いジャンルの中にも多様な世界が広がっています。その中に「質」という一本の柱はどうしても守らねばなりません。遠い地方の小さなホールに来てくださる優れた演奏家いるのだろうか？ ギャラは払えるのだろうか？ 世の中にたくさんの音楽家がおりますが、どの方も高額の花のように見えます。わからないことだらけでした。



悩みつつも演奏会を続けていた時、ある演奏会で偶々お隣の席に座られた音楽事務所「ヒラサ・オフィス」の創業者である平佐素雄さんとお知り合いになりました。ヒラサ・オフィスは大きくはありませんが、キラ星のごとく素晴らしい演奏家を抱えておられることで有名でした。早速次の緑風舎演奏会に顔を出してくださったのですが、おそらく緑風舎のテストだったのでしょう。翌年から多くの優れた演奏家を緑風舎に送ってくれました。それも僕が支払えるギャラで。そして緑風舎で和歌山出身の優れた音楽家とヒラサ・オフィスが推薦して下さる内外の素晴らしい演奏家たちが定期演奏会を開いてくださるようになりました。

緑風舎のもう一つの柱はボランティアの存在です。今では8名のボランティアが受付、演奏家の応接、CD販売、パーティと裏方をしてくださっています。日本で最高の裏方集団と評価の高いサントリーホールの理念から学び緑風舎理念をつくりだしました。緑風舎の誇りの一つです。演奏家が緑風舎を気に入ってくださるのは家に帰ったように感じられるからでしょう。ボランティアの気持ちが伝わっているからだと思画自賛をしています。緑風舎の定期演奏会は年に4回です。今では来年の演奏会を一年以上前から企画することができるようになりました。



緑風舎のもう一つの鍵は企業メセナです。小ホールにはもったいないほどのいいピアノ、演奏会のサポート、いずれも小生が関わっている岡畑興産の企業メセナのお陰です。地方でささやかに開いた小さな花がいつまでも咲き続けてくれるにはメセナ、ボランティア、それにいつも来てくださるクラシック音楽愛好家のお手伝いが不可欠です。

緑風舎が投じたクラシック音楽の輪は広がって県立図書館ホールのクラシック音楽復活定期音楽会に結びつき、さらにそこで知り合った仲間が昨年きのくに音楽祭を立ち上げました。10年すれば和歌山はクラシックのメッカになるのも夢ではありません。

いずれコロナも落ち着きます。そのときにはぜひ緑風舎にお越しください。南海電車和歌山市駅で緑風舎といただくされば、必ず迷わず案内してさせていただきます。



岡畑精記 略歴

緑風舎舎主

1942年(昭和17年)和歌山県和歌山市に岡畑圭吾 操の次男として生まれる。

1964年大阪大学理学部化学科を卒業し、同年安宅産業に入社。東京支社に勤務し化学品貿易と海外投資を担当。1972年安宅産業が伊藤忠商事に吸収合併された機会に同社を退社し、同年岡畑興産に入社し、東京支店長を経て1980年同社社長に就任した。2014年会長に就任し、現在にいたる。